

<報告>

2019年度音楽教育研究ゼミの活動

—— 国立音楽大学附属図書館企画展示「Nコン課題曲のこの10年」の記録 ——

**The Achievement of the 2019 Music Education Research Seminar :
Report of Kunitachi College of Music Library Exhibition
“The 10 Years of The NHK All-Japan School Choir Competition Song”**

鯨井 正子

KUJIRAI Masako

本稿は、2019年度音楽教育研究ゼミの3年生が取り組んだ国立音楽大学附属図書館の企画展示「Nコン課題曲のこの10年」に関して、準備から展示、及び展示後の感想に至るまでの記録である。音楽教育研究ゼミは、音楽教育専修の学生に開講されている。4年生での卒業研究を見据え、3年生の授業では、目的と題材を設定し、研究における一連の作業を経験して身につけることを目標に置き、報告文の作成とゼミ内での発表も行う。2019年度はNHK全国学校音楽コンクール(Nコン)を取り上げ、特に最近10年間に出品された課題曲に注目し、調査した。その成果を、この年度は図書館に展示した。

キーワード：音楽教育研究ゼミ、国立音楽大学附属図書館企画展示、NHK全国学校音楽コンクール、Nコン

1. 音楽教育研究ゼミの紹介と2019年度の目標の確定

音楽教育研究ゼミは、音楽文化教育学科音楽教育専修の3年生と4年生に開講されている専門ゼミⅠ～Ⅳのひとつである。2019年度は3年生8名が履修し、4年生になった2020年度も、引き続き同じ学生が籍を置いている。シラバスから、専門ゼミⅠとⅡの授業目標を挙げる。

専門ゼミⅠ

- (1) 音楽教育についての論文・文献を適切に読み取ることができる。
- (2) 音楽教育に関わる課題を設け、それに対する情報を調査・整理しまとめるなど、研究の方法を身に付ける。

専門ゼミⅡ

専門ゼミⅠでの成果を踏まえ、音楽教育に関わる課題の調査・研究を通して報告文を作成し、発表する。

3年生の専門ゼミⅠとⅡでは、例年、学生の興味や関心を引き出しながら、教員が題材や資料を提案し、授業目標に向けて取り組ませている。4年生の専門ゼミⅢとⅣになると、学生自らが卒業研究のテーマや目的を明確にし、調査・研究を行い、文章にする。専門ゼミⅠとⅡは、そのための学びと位置付けている。

2019年度のゼミでは、4月から5月にかけて、学生それぞれにこれまでやってきたことやこれからやってみたいことを発言してもらい、時には関連する文献に触れながら、ディスカッションを重ねた。彼らとの話から徐々にあがってきたのは、音楽作品や音そのものにはどのようなメッセージや感情があり、演奏者や教育者はそれをどう伝え、聴き手はどのように受け取るのかということだった。これをヒントに、かつ、資料が豊富にあると見込んで教員が提案したのが、NHK全国学校音楽コンクールの調査であった。また、本学附属図書館の企画展示に自薦による応募をし、調査した成果を披露する機会があることを学びの動機付けのひとつとした。

2. 国立音楽大学附属図書館企画展示「Nコン課題曲のこの10年」

展示の期間と場所は、本学附属図書館と企画代表者との打合せから、次のように決まった。

展示期間：2019年11月13日から12月20日まで

場所：国立音楽大学附属図書館2階フロアのライブラリーホール展示ケース・新着展示棚

展示物は展示開始日の一週間前に図書館へデータとして送ることとなった。これに合わせ、展示の準備はゼミの時間を中心とし、ゼミの目標が決まった翌週の6月12日から11月6日まで行った。

このように展示の期日と場所は決まっていたが、展示を通したゼミでの学びは、①準備、②展示、そして③展示後に図書館へ提出する報告書の作成までが含まれる。以下、①から③それぞれの詳細を記す。

① 準備

先行研究の読み取り

NHK全国学校音楽コンクールを題材にするにあたり、「NHK全国学校音楽コンクール」を扱った先行研究を辿ったところ、準備を始めた段階で次の7点が見つかった。これらを学生全員が読み、ひとりにつき1点を割り振って、読み取ったことを発表させた。

高野 敦による研究

- a. 「合唱における基礎的能力（3）—NHK全国学校音楽コンクール中学校の部 課題曲の分析から—」『教育学研究紀要55（2）』 広島：中国四国教育学会、2009年、615-620頁。
- b. 「合唱における基礎的能力とは何か—NHK全国学校音楽コンクール講評を基にして—（3. 音楽の認識と能力 III 音楽経験と認識）」『学校音楽教育研究 日本学校音楽教育実践学会紀要13』 名古屋：日本学校音楽教育実践学会「学校音楽教育研究」編集委員会、2009年、126-127頁。
- c. 「日本の合唱教育にNHK全国学校音楽コンクールが果たしてきた役割—小学校の部 課題曲の分析から—（5. 合唱教育の振り返り III 表現活動の展開）」『同上14』 同上、2010年、143-144頁。

中川明慶、浦池和彦、寺本和則による研究（寺本はe、fのみ）

- d. 「NHK全国学校音楽コンクールの歴史とその教育的役割について（I）—大正期における唱歌教育とNHK全国学校音楽コンクール（児童唱歌コンクール）の誕生をめぐって—」『鳥取大学教育学部研究報告 教育科学 27（1）』 鳥取：鳥取大学教育学部、1985年、119-129頁。
- e. 「NHK全国学校音楽コンクールの歴史とその教育的役割について（II）—第二次大戦前と大戦中のコンクールをめぐって—」『同上27（2）』 同上、1985年、341-357頁。
- f. 「NHK全国学校音楽コンクールの歴史とその教育的役割について（III）—第二次大戦後から今日（昭和59年度）までのコンクールの概況と現在のNHK全国学校音楽コンクールの持つ教育的諸問題と役割をめぐって—」『同上 28（2）』 同上、1986年、271-302頁。
- g. 虫明眞砂子 「日本の学校教育における合唱教育の在り方について—フィンランドの音楽教育機関の制度を通して—」『岡山大学大学院教育学研究科研究集録（148）』 岡山：岡山大学大学院教育学研究科、2011年、39-48頁。

学生各自の読み取りを整理すると、a、b、cは、NHK全国学校音楽コンクールの課題曲や講評を分析することにより、このコンクールが日本の合唱教育に与えてきた役割、影響、求めてきた能力とその変化を明らかにした。d、e、fは、NHK全国学校音楽コンクールの歴史研究を文献から行った。gでは、フィンランドの音楽教育とエスポー音楽学校の形態及びカリキュラム、合唱教育の位置付けや器楽教育とのバランスを考察することを通して、日本の学校教育における合唱活動の在り方を検討した。NHK全国学校音楽コンクールについては研究の動機で触れており、コンクール参加校の割合から日本での合唱活動の地域差を指摘し、その結果、学校音楽教育の内容に偏りがあると述べている。

これらの読み取りから、ゼミでは、先行研究が触れていない最近10年間（2010年度第77回から2019年度第86回まで）の課題曲に注目することに決めた。そのためにコンクールの概要と変遷を把握すること、また、曲の傾向は捉えつつも、音楽理論からみた分析より課題曲に携わった作者たちの意図を読み解くこととした。

本学附属図書館の所蔵資料や Web サイトの検索

先行研究の検索と並行して、「NHK全国学校音楽コンクール」をキーワードに本学附属図書館の所蔵資料を検索し、楽譜資料と録音資料のすべての把握に努めた。次の②展示でも述べるが、検索結果は展示物のひとつとした。

楽譜や録音以外の資料には、『教育音楽 小学版』及び『教育音楽 中学・高校版』（東京：音楽之友社）が挙げられた。この雑誌には、コンクール前には課題曲の作者による演奏のアドバイスやメッセージが、コンクール後には講評が掲載される。さらに、NHK全国学校音楽コンクールの公式 Web サイト「Nコン2019 NHK全国学校音楽コンクール」<https://www.nhk.or.jp/ncon/> も有効な資料に加えた。

作業行程

展示までの作業行程を月日とともに記す。

6月26日

全員で、最近10年間の課題曲の傾向と作者の意図を、主に楽譜から捉えることを始める。この作業は、前期のうちに終わらせることを目標にした。

7月3日

図書館と企画代表者との打合せの1回目。この時、展示概要「学生企画図書館展示について」と企画書のフォーマットを頂く。打合せには合計4回伺い、キャプションの書き方や作業の進め方など、アドバイスを頂戴する。

1回目の打合せを受け、ゼミでは展示の内容を検討した。結果、構成は、歴史、最近10年間の課題曲、作曲者へのインタビューの全3部に、展示タイトルは「Nコン課題曲のこの10年」とした。これに伴い、部ごとに役割分担を決めた。また、課題曲の作曲や編曲に携わったことがあり、本学の教員でもある上田真樹先生にインタビューを引き受けて下さるか打診し、以降、何度かご相談した。

8月30日

図書館に展示企画書を提出。

8月から9月にかけては都道府県別のコンクールや地方ブロック別のコンクールが行われるため、学生には可能な範囲で出掛けるよう奨めた。ちなみに、教員は東京都コンクールと関東甲信越ブロックコンクールの高等学校の部を観覧した。

9月2日

インタビューの実施にあたり、人を対象とする研究に関する研究計画等審査を申請、のちに受理される。

9月11日より後期のゼミが開始

後期が始まってからは、担当する部ごとの調査と展示物作成が続いた。

10月18日

インタビュー実施。

11月6日

図書館に展示内容をデータで送る。

11月13日

展示開始日。図書館へ展示の手伝いに伺う。のち、展示終了日も撤収に伺うよう、学生に声を掛けた。

② 展示

展示内容を次に記す。

ごあいさつ：展示の始めに「ごあいさつ」を置き、展示の概要を案内した。

1. Nコンの歴史

第1部では、NHK全国学校音楽コンクールの変遷を表にした。また、最近10年より前を対象に、コンクールの変化や転換点に当たる回の課題曲を7曲挙げ、解説、詩、楽譜、教科書を展示した。以下がその7曲である。

《冬景色》 第1回小学校男子 作詞作曲不詳

《海》 第1回小学校女子 作詞作曲不詳

《希望の歌》 第16回中学校の部 大木惇夫作詞；長谷川良夫作曲

《青春賛歌》 第19回高等学校の部 神保光太郎作詞；深井史郎作曲

《ロボット》 第68回小学校の部 サンプラザ中野作詞；福田和禾子作曲

《変》 第68回中学校の部 ドリアン助川作詞；寺嶋陸也作曲

《きょうの陽に》 第68回高等学校の部 新川和江作詞；高嶋みどり作曲

2. 最近10年間の課題曲から選んだ8曲の紹介

第2部では、最近10年間の課題曲から担当者が8曲を選び、作者へのインタビュー記事、詩、楽譜などを紹介した。以下、8曲を展示順に挙げる。

《ぼくらは仲間》 第78回小学校の部 やなせたかし作詞；鈴木憲夫作曲

《fight》 第79回中学校の部 Y U I 作詞作曲；松本望編曲

《僕が僕を見ている》 第86回高等学校の部 川村元気作詞；岩崎太整作曲；横山潤子編曲

《ふるさと》 第80回小学校の部 小山薫堂作詞；youth case 作曲；桜田直子編曲

《メイプルシロップ》 第82回高等学校の部 穂村弘作詩；松本望作曲

《結—ゆい—》 第83回中学校の部 miwa 作詞作曲；佐藤賢太郎編曲

《いまだよ》 第84回小学校の部 宮下奈都作詞；信長貴富作曲

3. 作曲家インタビュー

第3部では、Nコン課題曲の作曲や編曲に携わっている上田真樹先生に行ったインタビューを文字に起こした、読む展示を作った。内容は、先生作曲の第85回高等学校の部課題曲《ポジティブ太郎～いつでもはじまり～》(つくく作詞)を中心に、課題曲の作・編曲や創作に関わるお話をQ&Aの形に整え、所々に楽譜を挿入した。ゼミでは、展示が始まってから《ポジティブ太郎～いつでもはじまり～》を練習する時間を増やし、インタビューで伺った内容も含めながら、合唱を試みた。

加えて、「NHK全国学校音楽コンクール」から検索した本学附属図書館所蔵の楽譜と録音資料のすべてと、展示に使用した資料及び参考文献を一覧にした冊子を作成した。冊子は自由に手に取って見てもらい、持ち帰ることもできるようにした。

③ 報告書作成—展示の成果、反省、感想—

展示期間終了に合わせ、ゼミ内で展示に関する成果や反省、及び感想を話し合った。挙げた意見は図書館への報告書にまとめ、12月14日に提出した。

成果には、ボリュームのある内容を展示することができたことや、展示を機にインタビューの経験が得られたことが挙げられた。インタビューの展示が充実した内容になったのは、上田先生からたくさんのお話とアドバイスを頂けたことが大きい。また、宣伝用の配付チラシに学生が写った写真を載せたことから、展示に関わっている顔ぶれを知ってもらうことができ、展示自体に興味を持ってもらえたとの声もあった(次頁【配付チラシ】参照)。学生それぞれが展示を見て下さった友人や学内の先生から感想を頂いたと聞き、彼らを通して、教員自身も展示への好意的な反応を受け取ったように思っている。

対して、反省には主に3つが挙げられた。1つめは展示の見せ方である。学生からは、出来上がった展示物を実際に見て、文字の大きさや字体を工夫したり、キャプションで説明していることを楽譜にもわかりやすく書き込んだりなど、視覚に寄り添う資料作りを考えたかったとの意見が出た。2つめは、インタビューの担当者からの反省として、スケジュールの都合上、思いがけずインタビューの実施日と展示開始日の間が短くなってしまい、インタビューの内容を展示の形にするのに余裕がなかったことが挙げられた。3つめは、研究テーマの維持が難しかったことである。

教員の視点を加えると、主に反省点には、展示開始までに夏休みや芸術祭が挟まれたことも起因していると考えられる。後期に入ってからでもなお、資料の整理が追いつかない場面や、時間が限られていることが分かりながらも、集中力が途切れそうな様子も見られた。さらに3つめの、研究テーマの維持が難しかったという声に対しては、テーマの絞り込みが甘かったのではないかと振り返っている。学生は、いざ作業を始めると夢中になり、要領も覚える。そのため、目的を再確認し、グループ内やゼミ全体での思考のやりとりやコンセンサスを図ることが少なくなってしまったように思う。

このように学生からは成果も反省も挙げられたが、彼らが4年生になり各自の卒業研究に取り組むときには、今回の経験を生かして欲しい。教員も、展示作業を通して見えた学生の学びの実際を参照しながら、今後のゼミや授業を進めたいと考えている。改めて、本学附属図書館で展示する機会を頂けたことに感謝したい。

【配付チラシ】

テキスト

図書館
展示

Nコン課題曲のこの10年

～音楽教育研究ゼミ～

2019年11月13日(水)～



この企画展では、NHK全国学校音楽コンクール課題曲の最近の10年間について展示します。コンクールの歴史やNコンの歴代テーマをもとに選んだ曲や、最近10年間の楽譜や歌詞を分析した中から特徴がある8曲をピックアップし展示しています。また、本学に勤めており、2018年度高校の部の課題曲《ポジティブ太郎》を作曲した上田真樹先生にインタビューを行い、楽曲制作中のことやNコンの審査の話などもまとめました。

盛り沢山な展示になっているので、みなさん是非ご覧ください！

期間中、図書館内ガラスケースに展示中！

